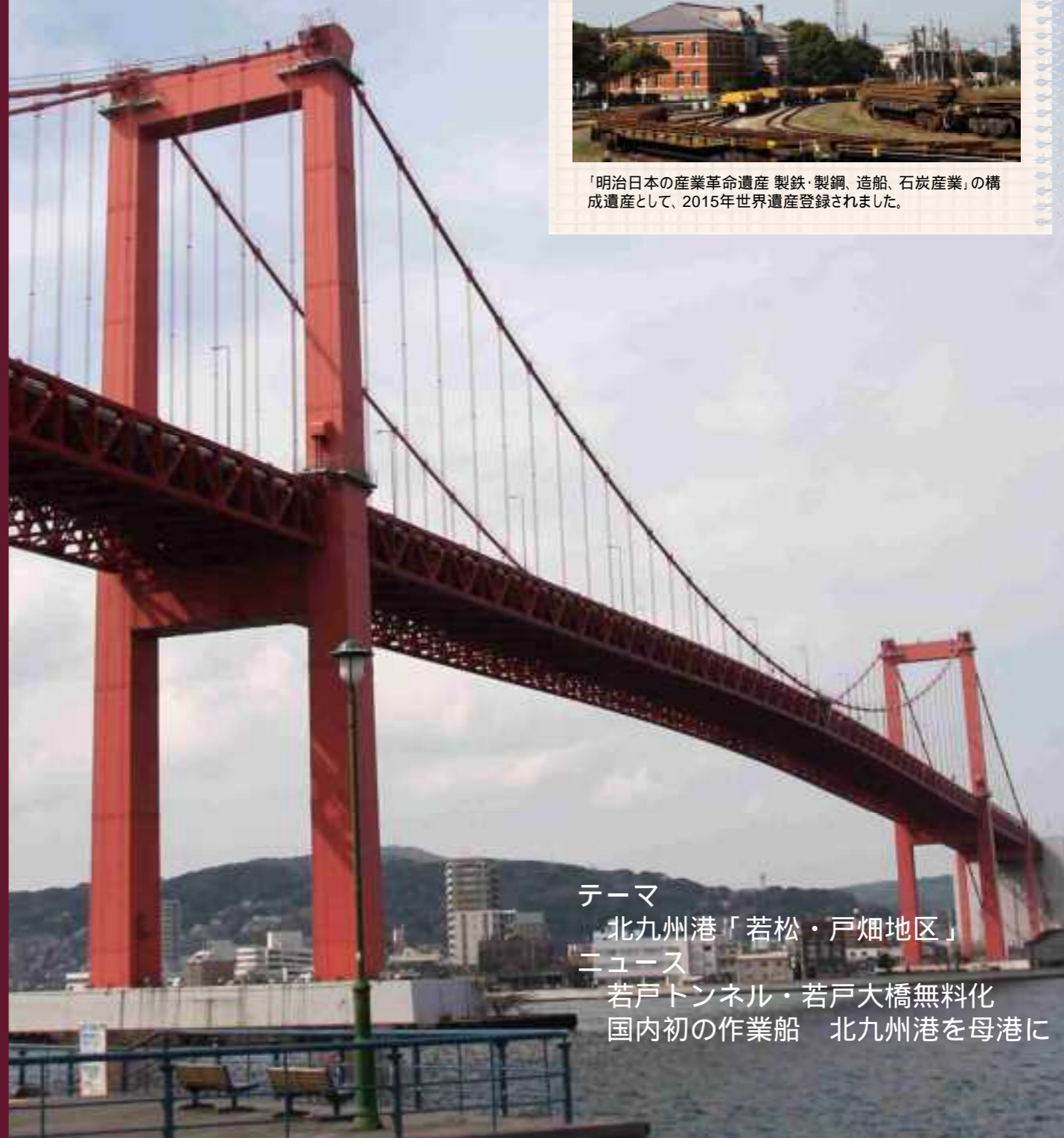


# 北九港&空 NEWS

2018  
WINTER  
Vol.15



テーマ  
北九州港「若松・戸畑地区」  
ニュース  
若戸トンネル・若戸大橋無料化  
国内初の作業船 北九州港を母港に

## イベント

### 親子海釣り大会

平成30年10月20日(土)、北九州港の大里地区大里第1船だまりで親子釣り大会が開催されました。日本釣振興会・九州地区支部が主催し、170名ほどの家族が参加しました。

親子釣り教室や稚魚放流事業等のイベントがあり、マダイやメバル、カサゴなどを釣り上げました。

国土交通省では、観光資源として既存のインフラの有効活用や港湾における文化振興の一環として、港湾における釣り施設や既存の防波堤の活用が進められています。



### 関門海峡 キャンドルナイト

平成30年11月17・18日(土・日)下関と門司港の2ヶ所で、「関門海峡キャンドルナイト」が開催され、多くの人で賑わいました。

今回は、「和の下関」と「洋の門司港」をテーマにキャンドルアートが行われました。両会場合わせて約3万個のキャンドルが設置され、幻想的な世界が広がりました。

併せて、イルミネーションポイント灯式やゴスペルライブなどが行われました。このキャンドルはボランティアにより、設置から点灯、片付けまで行われています。



## ニュース (NEWS)

### 若戸トンネル・若戸大橋無料化

平成30年12月1日(土)より、若戸トンネルと若戸大橋の通行料金が無料となりました。

無料化によって人、物流の流れがより円滑になり、若松地域の振興や市民生活の利便性が向上するなど大きな効果が期待されます。また、若松への企業進出や、人の移動の活性化を見込んでマンション建設が始まるなど、地価の下げ止まり等の波及効果にも期待が高まっています。

無料化を記念して、現在、若戸大橋のライトアップが行われています。(18時(日没)から22時ごろまで)



若戸大橋ライトアップイベント(平成30年12月撮影)  
【提供】旧古河鉱業若松ビル

### 国内初の作業船 北九州港を母港に



北九州港に停泊するSEP型多目的起重機船「CP-8001」



平成31年2月14日 福岡九州地方整備局局長視察状況  
(左より、北九州市 北橋市長、五洋建設清水社長、福田副局長)

平成31年1月8日(火)に、五洋建設(株)が国内で初めて建造したSEP(Self-Elevating-Platform)型多目的起重機船の母港を北九州港とすることが決定されました。SEP船は、洋上風車の設置工事等で利用される特殊船で、北九州港における「風力発電関連産業の総合拠点化」の実現に向け、弾みがつくものと期待されています。

【SEP船とは・・・】  
SEP船は4本の脚を海底面に着底させ、本体を海面上に上昇させた状態で作業する作業船のこと。波浪の影響を受け難いため、海上において精度高く、安全かつ短期間で風車を設置することができます。

九州地方整備局では、昨年7月より、各施設を管理する事務所等でインフラカードを無料配布(全65種類)。配布施設等で希望すると1人1枚無料で入手できます。

国土交通省 九州地方整備局  
**北九州港湾・空港整備事務所**  
〒801-0841 福岡県北九州市門司区西海岸1-4-40  
TEL(093)321-4631 FAX(093)321-5525  
Webアドレス <http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/kitakyusyu/>



北九州港の中で、戸畑・若松地区は、かつて「洞海港」と呼ばれた工業港の湾口部に位置しています。昭和37年に若戸大橋が開通するまで、渡船による往来が行われていました。現在は、明治期に石炭で栄えた時代を感じる建物などが保存されており、古い街並みを感じることができる地域となっています。

今回は、この魅力ある2地区について紹介します。

### ①若戸トンネル



沈埋函(1号函)進水状況(平成17年10月)

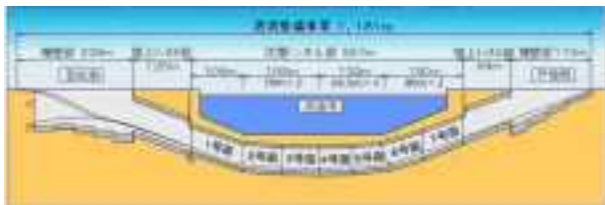


開通式典(平成24年9月15日)

若戸トンネルは、若戸大橋及び周辺道路の慢性的な渋滞の緩和、響灘地区から戸畑・小倉方面へのスムーズな交通アクセス確保のため、洞海湾を海底トンネルで横断する新たな臨港道路として整備されました。

若戸トンネルは、車両用として九州初の沈埋トンネルです。サッカーコート約半分程度の大きさがある沈埋函(約2万4千tのコンクリートの箱)が7つ沈められた構造となっています。

本事業では、『土木学会技術賞』(平成24年度)と『日本港湾協会技術賞』(平成25年度)を受賞しております。



断面イメージ図



旧古河鉱業若松ビル館長 若宮 幸一さん

Q2 南海岸通りについて教えてください。

若松は、江戸時代より石炭の積出港でした。日本の近代化により、内向けの日本一の石炭集積地となり、若松南海岸通りには、旧古河鉱業若松ビルをはじめとした近代的なオフィス街が形成されました。野ビル、石炭会館、朽木ビル等は現在でもテナントビルとして使用されています。レトロな建物と目の前を船が通る風景は観光客の方にも好評です。

Q1 旧古河鉱業若松ビルについて教えてください。

1908年に完成したレンガ造り大正8年の建物です。老朽化が進み、平成9年に解体されました。機直面平年が、市民の危行署名付等により、市九州市による保存修理工事が行われ、平成16年に観光施設として市民の交流の場として活用されています。

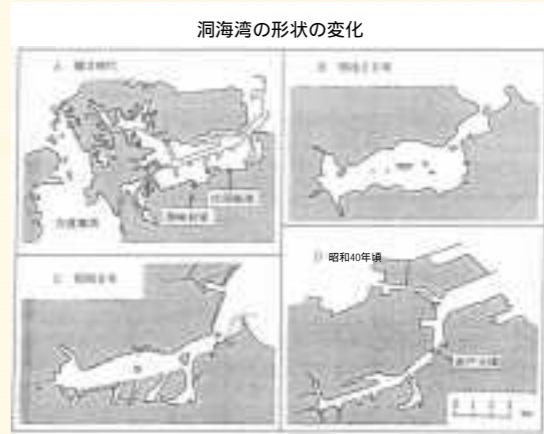
### 若松南海岸でインタビュー

Q3 今後の展望についてお聞かせください。

若松地区全体として、響灘工科大学や若松北海岸など観光に携わることができ、情報が交換できる場ができればと考えています。また、この石炭で栄えた若松の歴史について、ここでは書き尽くせないほど、沢山の話しをお聞かせいただきました。ありがとうございます。



平成23年11月撮影



北九州市公害対策史より引用

### 洞海湾の歴史

古くは洞海(クキノウミ)・大渡川などと呼ばれた洞海湾はかつて、豊かな海と言われる場所でしたが埋立と浚渫が繰り返され、その形を大きく変えた湾です。20世紀には、日本の四大工業地帯の一つとして、重工業を中心に発展し、日本の近代化・高度経済成長を牽引してきました。一方で産業の繁栄が激しい公害をもたらし、洞海湾は工場排水により「死の海」と呼ばれました。

この公害に対し、市民、行政、企業が一体となって取り組むことにより、環境は急激に改善され一九八〇年代には、環境再生を果たした奇跡のまちとして国内外に紹介されています。

### ②若戸大橋

昭和5年に起きた渡し船事故(死者73名)をきっかけに、昭和34年に着工、昭和37年に開通した日本最初の本格的吊橋です。全長2108m(取付部を含む)、支間長は367mあり、建設当時は支間長が東洋一の吊り橋であり、赤い色は、「エネルギー・情熱・使命」を象徴する色とも言われています。

我が国の長大橋時代のきっかけとして、その技術は後の関門橋、平戸大橋、本州四国連絡橋へと受け継がれました。

### ③若戸渡船

かつて伝馬船を使用していた大渡川渡船は、大正時代から若戸渡船として運航されました。明治44年には蒸気船を、昭和9年にはカーフェリーを、渡船として日本で初めて就航させるなど、古くから先進的な渡船でした。若戸大橋の開通に伴い貨物渡船は廃止されましたが、旅客部門は利用者の強い要望により存続し、現在も市営渡船として運航されています。



昭和40年頃の若戸大橋周辺 [提供] 旧古河鉱業若松ビル



現在運航しているく丸(総トン数19トン)

